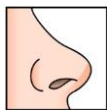


学習指導案「目のような手」

<p>子どもの学習過程 ●主な発問と◎気づき</p>	<p>目標に近づくための ★教師の手だて◇評価の観点▲留意点</p>	<p>関連性を高める手だて</p>
<p>〔目標〕 「触る」ことで、目で見なくてもわかるものの形や感触について体験する。触ることによって感じたことを素直に表現し、グループや学級で共有する。「手」とおとしての体験を毎日の生活と結びつけて考える</p>		
<p>●前時(ジュースの実験)から、気づいたことや感想を発表する ◎家でもやってみた ◎鼻をつまむとのみこみにくい ◎目を隠すと、食べてるものがないかわかりにくい</p> <p>●ブックトークから自分にもある感覚について意識する</p> <p>◎知ってる、見たことある ◎今日は触覚か?</p> <p>●「からだのみなさん」を確かめる実験をしよう</p> <p>◎わかった ◎丸いのが何個もは言ってる ◎音がするよ ◎わかったけどなんて言うの?</p> <p>●はい、じゃあ袋を集めます。みんなで答え合わせします。</p> <p>●袋をあけて、一つ一つ黒板に貼っていく</p> <p>●「あたたか!」子に、どうしてわかったの? ◎よさかったことあるから ◎丸いから ◎丸くてツルツルしてる ◎丸くてふわふわしてる ◎丸くて音がしたから ◎プチプチしてる ◎つぶしてみた ◎ゲームの時、使った</p> <p>●「目みたいな手」だね ●ビー玉は、2色。ふわふわは何色だった?鈴の色は? ◎見てないからそれはわからない ◎それは、目でみないとだめ</p>	<p>★嗅覚(鼻の絵)から初め、目、耳、舌、手のイラスト提示し(パワーポイントを使って)「五感」を意識させる</p> <p>★テーマ「からだの実験」を板書</p> <p>★本:「かんじるちから」 「てのひらおんどけい」 「はだしになっちゃえ」 「みえないってどんなこと」</p> <p>★「五感」を意識させる(パワーポイントを使って)</p> <p>★今回は、目と舌は使ってはいけません</p> <p>★実験の説明をする 宝物がはいった袋をこれから配る。袋の中に手を入れて、中に何が入っているかをあてる。 ①二人(ペアもしくは三人)で ②まず一人ずつ、袋の中に手を入れて「手」でよく感じてください。 ・いくつはいつているか ・どんなものはいっているか ・どうしてわかったか ③3分ずつで交替して、相談しながら、わかったものを書いておいてくださいね。</p> <p>★ワークシート配布</p> <p>★手、耳、鼻のカードに子どもの表現を板書</p> <p>★手のカードに、表現が集中するだろう</p> <p>★みな子どもたちの生活の中にあるもの身近にあるものだから、脳が覚えていて触るだけでもよくわかること。また、わからないものは何か意識させる</p>	<p>袋の中のものは8つ プチプチ ビー玉2個、鈴、消しゴム、ピンポン球、さいころ、ふわふわ(ぼんぼん)</p> <p>時間を計って知らせる(3分×2)</p>



をつかって、ふくろの中にはいって

いるものをあてよう

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧



は、つかわないでね